

キャンドルのつどい

【所要時間 約2時間】

…活動を行うにあたって…

キャンドルの火を囲み、歌や踊りなどの楽しいスタンプを通じて、連帯感や友情を深め、楽しい思い出を作るとともに、研修のまとめや自己を深くみつめることができます。

【活動場所】

プレイホール・・・80名程度

講堂・・・・・・・・・・100名程度

体育館・・・・・・・・・・200名程度

【準備する物】

利用団体	【売店にて購入】ロウソク 60号(2本入)(購入する場合は19時までに) 交歓の集いで必要な物・ライター (or マッチ)
センター	燭台・ロウソク・ロウソク受け・CD ラジカセ・マイク・衣装

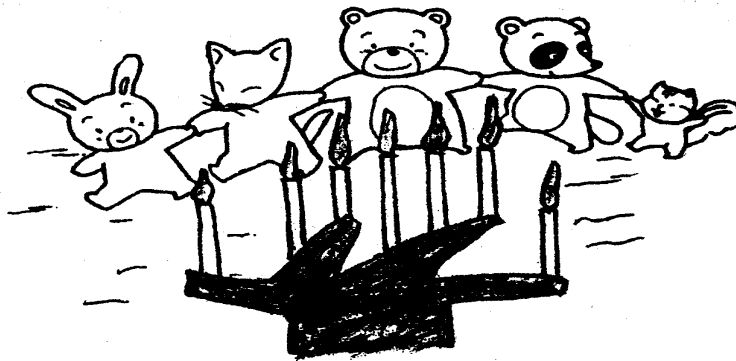
※センターで準備するロウソクは、燭台・女神・火の守用のみです。その他に必要なロウソクは各団体に準備してください。

※ロウソク受けは、1団体10個まで貸し出せます。

※準備時間を30分程度確保しておいてください。

【役割分担の例】

役割	人数	内容
火の司	1	プログラム全体の司会進行をします
女神	1	メインキャンドルの入退場や火の守への分火を行います
火の長	1	つどいの責任者で迎火・送火の集いで挨拶を行います
火の守	4～8	分火された火を燭台に移し、誓いの言葉を述べます
献詩係	3	詩の朗読(1部・3部)、祈りの言葉を述べます
音響・照明係	2	プログラムに合わせて音響・照明を担当します
会場係	10	会場・燭台の準備や後片付けを行います



【展開例】

事前準備

- ・燭台・ロウソク受け・ロウソク・衣装・使用機器の準備
 - ・リハーサル等
- ※ 事前の準備時間を 30 分程度確保しておいてください。

第 1 部 迎火の集い(キャンドルの周りに集い、聖なる火を持つ女神を迎え、中央の燭台に点火します。
聖なる火がともるロウソクを見つめながら、心に友情の火をともしましょう。)

内容	流れ
全体入場	(女神) 衣装を着替え、用意しておく (全員) 4列で入場し、火床を中心に円になる
集い開始の言葉	(火の司) 「ただいまより、〇〇学校キャンドルの集いを行います 女神が聖なる火を持って入場いたしますので静かに見つめて ください」
女神入場	(火の司) 「女神入場」 (女神) 全員の輪の外を一周し、火の長の横につく (火の司) 「火の長より集い開始の言葉をお願いします」
火の長の言葉	(火の長) 「いま、ここに・・・」(資料 1→P48)
火の守へ分火	(火の司) 「女神より火の守へ分火を行います」「分火」 (女神) 火の守へ一人ずつ分火してまわる (火の守) 分火後、誓いの言葉を順番に言う (火の守 A) 「私はこの火に・・・」(資料 2→P48)
中央の燭台に点火	(火の司) 「女神より火の守へ分火されました。引き続き祈りの言葉の朗 読を聞きながら火の守によって中央の燭台に点火をお願い します」
祈りの言葉の朗読	(献詩) 「最初のキャンドルに明かりがともされる時、こよいを・・・」 (資料 3→P49) (火の守) 朗読に合わせて一人ずつ順番に中央の燭台に点火 (献詩) 「全てのキャンドルに明かりがともる時、みんなは・・・」 (資料 3→P49) (女神) 残りのキャンドルにすべて点火し、 最後に燭台の最上部に自分のロウソクを置く (献詩) 「キャンドルは燃える・・・」(資料 4→P49)
1部エンディング	(火の司) 「女神によって聖なる火が退場いたします。 静かに見送らしましょう」「女神退場。」 (全員) 流れてくる曲を静かに聞く (知っていれば歌う あとはハミングで) (女神) 静かに退場

第 2 部 ゲーム・出し物 (グループや班で楽しいゲームや出し物を行い、友情を深めましょう。)

第3部 送火の集い（集いの間自分達を照らし続けてくれた火に感謝し、今までの生活を振り返りながら聖なる火を送り出しましょう。）

内容	流れ
全員集合	(全員) 燭台の周りに集合する 流れてくる曲を静かに聞く (火の長) 燭台の前に出てくる
女神入場	(火の司)「ただいまより、第3部送火の集いに移ります」 (火の司)「まもなく女神が入場いたしますので静かにお待ちください」 (女神) 入場し、そのまま中央の火の長の横につく
燭台の消火	(火の司)「女神の手によって中央の燭台の明かりをひとつずつ消してください」 (女神) ロウソク受けの下部で燭台の明かりをひとつずつ消していく 最上部のロウソクだけ消さずに、持っているロウソクへ火をつける
詩の朗読	(火の司)「女神の手によってすべての明かりが消されました。 女神の持っている一筋の炎を見つめながら詩の朗読を 静かに聞いてください」 (献詩) 「二度とない人生だから・・・」(資料5→P49)
火の長の言葉	(火の司)「人は決して一人では生きられません。支えあい、寄り添いあってこそ生きられるのです。このキャンドルも、自分の身をすり減らしながら、私たちのために光を与えてくれました。あなたが愛する人を、そしてあなたを愛してくれる人を思い浮かべてごらんください。お父さん、お母さん、兄弟、友達・・・」 (少し間をあけて) (火の司)「最後に火の長より終わりの言葉をお願いします」 (火の長)「この研修を通じて・・・」(資料6→P49)
女神退場	(火の司)「女神退場」 (女神) 自分の火を持ったまま全員の周りをゆっくり一周して退場する
集い終了の言葉	(火の司)「以上をもちまして、〇〇学校キャンドルの集いを終わります」
全体解散	(全員) 解散

終了

- ・用具の回収、返却
- ・燭台を元に戻し、燭台や床に垂れたロウを清掃
- ・終了の報告



キャンドルのつどい資料

(資料1) 火の長の言葉 (1部 迎火の集い)

いま、ここに皆さんの友情と団結のために聖なる火を迎えます。

私たちは、この研修に参加することにより、仲間としての契りをさらに深く結ぶことができました。ともすれば、自己の生活を見失いがちな私たちはこの研修によって、自ら考え、自ら行うことの意義を、身をもって体得しました。

規則正しい生活、創造的な生活体験は、自己を改めて見直させてくれると共に、多くの若き仲間の愛しさや素晴らしい行動を知らせてくれました。

この聖なる火を囲んでの集いが、一人一人の心の奥深く、いつまでも美しく、しかも、楽しい思い出となるように祈りつつ、この集いを開きます。

(資料2) 誓いの言葉 part 1

私たちは、今まで温めてきた友情をこの機会にますます大切にすることを誓います

[友情の火]

私たちは、この感動を忘れず、みんなのため、社会のために先頭に立って努力することを誓います

[努力の火]

私たちは、いつも相手の立場になって考え、行動し、友達をいたわり尊重することを誓います

[尊敬の火]

私たちは、協力すればなんでもできたことを忘れず、協力の精神を大切にすることを誓います

[協力の火]

私たちは、何事にもくじけず、いつも希望を見つめて、前進していくことを誓います

[希望の火]

私たちは、いかなる困難や問題にぶつかっても、お互い助け合い、励まし合うことを誓います

[助け合いの火]

私たちは、全ての人に優しさと思いやりの心をもつことを誓います

[思いやりの心]

私たちは、家族を大切に、一生懸命生きていくことを誓います

[家族の火]

誓いの言葉 part 2

わたしはこの火に友情を誓います

わたしはこの火に絶えず努力することを誓います

わたしはこの火に尊敬する心をもつことを誓います

わたしはこの火にみんなと協力することを誓います

わたしはこの火に希望をもつことを誓います

わたしはこの火に助け合いの心を誓います

わたしはこの火に思いやりの心を誓います

わたしはこの火に家族を大切にすることを誓います



(資料3) 祈りの言葉の朗読

最初のキャンドルに明かりがともされる時、今宵を素晴らしい出会いの時にさせてください
二番目のキャンドルに明かりがともされる時、あなたと私の友情をあたためあうときにさせてください
三番目のキャンドルに明かりがともされる時、仲間づくりの波紋を大きく広げさせてください
四番目のキャンドルに明かりがともされる時、私の父母に、私の兄弟に、そして友達に、ありがとうと感謝させてください
五番目のキャンドルに明かりがともされる時、私の力の限り、誠実に生きていく
英知の力を与えてください
六番目のキャンドルに明かりがともされる時、限りない愛と奉仕をささげてください
七番目のキャンドルに明かりがともされる時、困難を克服する勇気を授けてください
八番目のキャンドルに明かりがともされる時、いろんなことに感動できる豊かな感性を与えてください
すべてのキャンドルに明かりがともされる時、みんなは一人のために、一人はみんなのために、どうぞ
私たちが調和と創造の世界に導いてください

(資料4) 詩の朗読

キャンドルは燃える 赤々と燃え まっすぐに燃え 勇気を出せと励ます
キャンドルは燃える ゆらゆらと燃え 招くように燃え 豊かであれと励ます
キャンドルは燃える 踊るように燃え 舞うように燃え 輪を広げようと励ます
私を支えるキャンドルの火は いつまでも闇を照らし 今が本番だと教える
人生には リハーサルがないと教える 私はいつまでも この火を見つめる

(資料5) 詩の朗読

二度とない人生だから 一輪の花にも 無限の愛をそそいでゆこう
二度とない人生だから 一羽の鳥の声にも 無心の耳を傾けてゆこう
二度とない人生だから 一匹のコオロギも 踏み殺さないように心してゆこう
二度とない人生だから いっぺんでも 多くの便りをしよう 返事は必ず書くようにしよう
二度とない人生だから まず一番身近な者たちに できるだけのことをしよう
二度とない人生だから 貧しいけれど心豊かに接してゆこう
二度とない人生だから つゆ草のつゆにも めぐりあいの不思議を思い 足をとどめてみつめてゆこう

(資料6) 火の長の言葉 (3部 送火の集い)

この研修を通じて、私たちは、多くの友を得ました。今まで、赤々と燃えていた火も、小さな一筋の炎となりました。

この光は小さいけれど、五本、十本、数十本と集まると同じ目的に向かって、がっちり手を取る灼熱の炎ともなるのです。人は一人では生きられるものではありません。家庭でも職場でも学校でも、多くの人と手を握り助け合って、初めてお互いが自己の生活をより良く築き、社会に役立つ人となることができます。

この光は、やがて皆さんの心にもともされ、友情の火として明るく輝き、育てられることでしょう。

これからの人生には、楽しいことばかりでなく、苦しいこと、悲しいこと、いろいろなことが待ち受けていると思います。

その時には、この火とこの友を思い浮かべ、友情の火を支えとして力強く生き抜いてください。

将来の幸福と健康を願いつつ、この集いを終わります。